



前橋城三の丸跡に建つ清光寺

本館1階の和室は畳を上げると厚さ3センチの松の板が敷かれ、廊下とあわせて能舞台としても使用できるようになっていているとのこと。前橋のおもてなしの原点ともいえる、素晴らしい建物です。

**楯取素彦と文の姉・寿の尽力により建立された清光寺**

臨江閣を後にし、次に訪れたのは、素彦と文の姉で最初の妻である寿が、この地に念仏を広めようと本願寺説教所として創設し、大正9年に寺号を取得した清光寺。住職の高橋さんに素彦と寿、そして文の信仰の様子を伺い



ました。

「寿と文の兄である」松陰とその家族が浄土真宗と深いつながりがあることは意外と知られていませんが、松陰の母・滝が熱心な浄土真宗の信者であったことから、その子らも影響を



寺の創建と楯取素彦・寿との関わりについて語る高橋住職



高橋住職の説明に熱心に耳を傾ける市民編集委員・中野さん(左) 奈良さん(右)

「ぐんま花燃ゆ大河ドラマ館」

2016年1月31日(日)まで 9:00~17:00  
 ※昭和庁舎点検日に当たる11月14日(日)、15日(日)は休館となります。  
 ※最終入場は16:30となります。

種類	区分	入場料
一般入場券	大人(高校生以上)	500円
	子ども(小中学生)	200円
一般団体割引入場券(20人以上)	大人(高校生以上)	400円
	子ども(小中学生)	160円
特別割引入場券	大人(高校生以上)	400円
	子ども(小中学生)	160円

※未就学児は無料 ※障害者手帳提示で特別割引を適用  
 ※Suica決済、ぐんまきバスポートおよびぐんまきシニアバスポート提示で特別割引を適用

**編集後記**

楯取素彦と寿、そして文は夫婦として、また姉妹として強い絆で結ばれていたことを、取材を通じて知ることができました。市民学芸員さんに案内していただき、前橋の歴史をさらに深く知ることができました。(奈良)

石碑に刻まれた多くの名前を見て、楯取素彦がいかに群馬の人たちから愛されていたかを実感しました。楯取が活躍するドラマのこれからの展開も楽しみにしたいと思います。(中野)

**スタートはぐんま花燃ゆ大河ドラマ館**

楯取素彦らゆかりの地を巡るに当たり参考にしたのが「前橋まちあるきマップ」。JR前橋駅を発着点にぐんま花燃ゆ大河ドラマ館―臨江閣―前橋文学館―アーツ前橋を巡るモデルコースの他、楯取素彦ゆかりのスポットや歴史的建造物、飲食店情報などが紹介されています。

取材はぐんま花燃ゆ大河ドラマ館からスタート。ドラマのセットや県令室などが復元された会場では、明治時代の前橋の様子を知ることができました。



前橋まちあるきマップ

「石碑には県内の多くの市町村からの寄付者の名前が刻まれています。県内からのお客様の中には、ご先祖の名前が刻まれていたという人もいらっしゃいます」と清野さん。

素彦が近代の群馬の人たちから、いかに信頼されていたかを物語る石碑です。園内には素彦と文が晩年を過ごした山口県防府市から贈られた6種類の梅の木「至誠の梅」も葉を茂らせ

ています。

緑豊かな公園を抜け、臨江閣へ。この建物は、明治17年に迎賓館として素彦や地元有志の協力・寄付で建てられました。近代和風の木造建築で本館・茶室は県指定の重要文化財です。



ぐんま花燃ゆ大河ドラマ館の県令室で楯取気分の奈良さん



前橋市民学芸員の清野さんより前群馬県令楯取素彦功德碑の説明を受ける

**前橋まちあるきマップで楯取素彦と妻ゆかりの地を巡る**

現在放送中のNHK大河ドラマ「花燃ゆ」は、吉田松陰の妹で、初代群馬県令楯取素彦の妻となる文が主人公です。ドラマの後半にかけて、前橋市は物語の舞台に。今回は、楯取素彦と文、そして姉の寿ゆかりの地を巡り、前橋での様子を取材しました。担当は市民編集委員 奈良博吉・中野和子

問い合わせは 文化国際課 ☎027-8998-6992  
 まちあるきマップについては 観光振興課 ☎027-210-2189

